

南の島々を輝かせるプロジェクト

～ ITを活用した離島の経済振興～

Remote Island which utilized The project to Brighten islands in The south

～ IT it is possible brighten promotes economy ~

JEPC 九州本部本部長・JEPC イベント総研特別研究員 須川 一 幸
Jepc Kyuusy headquaters general manager Kazuyuki Sugawa
Jepc Event General Laboratory. Special Researcher

・本プロジェクトの背景

1．鹿児島県離島の海の玄関口鹿児島本港区

(1)鹿児島本港区の概要

鹿児島本港区は、今から約 200 年前の薩摩藩の時代に琉球貿易が盛んになるにつれて、海運上の必要から波止場（三五郎波止場）荷役護岸を建設し、港として利用したのが始まりといわれている。

昭和 34 年から 10 カ年計画で新港区の建設が進められ、昭和 43 年 5 月沖縄航路が、昭和 47 年 11 月大島航路が本港区から新港区へ移転した結果、本港区は湾内航路及び種子・屋久等の離島航路の発着拠点となり、商港区としての機能を受け持つこととなった。

昭和 57 年 6 月に離島航路の集約化や市民の憩い、賑わいのための施設導入などの諸要請に対処するため港湾計画が改訂され、昭和 61 年 11 月から埋立工事に着手し、平成元年 3 月には離島不定期航路用の小川埠頭岸壁と小川上屋が完成した。

平成 12 年 4 月から十島航路、平成 13 年 4 月から三島航路に供用開始され、平成 14 年 9 月には旅客ターミナルが完成し、供用開始された。

平成 19 年には、南ふ頭に種子・屋久高速船ターミナルが完成し、同年 4 月に供用を開始し、鹿児島県離島航路の発着点 / 海の玄関としての機能を満たした。

(2)鹿児島本港区の課題

鹿児島は、新幹線とアミュプラザ鹿児島の開業による鹿児島中央駅一帯、鹿児島最大の繁華街天文館、そして鹿児島本港区のウォーターフロントが相互に連携して南九州一の魅力的な都市空間を形成しつつある。

このような再開発計画の中で、後期スケジュールとされていた南ゾーンの高速船埠頭と一体的な整備が予定される住吉地区は、今後本港区再開発計画の最終段

階として「みなとまちづくり」への取り組みがなされることになる。

住吉地区は、一部が市有地のほかほぼ全域が県有地で、公共施設、商業施設、駐車場、集合住宅等に利用されているが、この数年建物の老朽化による解体撤去が進み、空地が目立ちつつある。

九州新幹線の起終点である鹿児島中央駅から、まっすぐにナポリ通りを経てパース通りの行き着く先に堂々とした桜島を眼前に、波静かな内湾をもつ 3ha の県有空地は、これからの鹿児島や、鹿児島港のウォーターフロント開発にとって重要な財産となっている。

本地域を県民市民はもとより観光資源として如何に活用し活性化させるかが課題となっており、南の島の玄関口・離島航路の基地づくり社会実験の計画が進められた。

2．鹿児島県離島の現状と課題

(1)鹿児島離島の概要

鹿児島県は、南北約 600km にわたる広大な県域に、28 の有人離島を有している。本県の離島は、火山あるいは隆起によって生じたもので、外海・内海離島、小型・大型離島、群島型離島とその形態は多様である。

本県離島の全国の離島に占める位置は、離島面積 (2,489 平方 km) および離島人口 (191,386 人) が 1 位、離島市町村数 (22) が全国で 2 位、有人離島数 (28) が長崎、沖縄、愛媛県に次いで 4 位であり、全国有数の離島県といえる。県内においては、市町村数 29.2%、面積 27.2%、人口 10.7% を占めている。

有人離島 28 島のうち、離島振興法指定離島 (一般離島) が 19 島、奄美群島振興開発特別措置法適用離島が 8 島ある。

(2)人口の減少と高齢化の進行

鹿児島県の離島は、離島振興法が適用される一般離島と、奄美群島により構成されており、一般離島は「鹿児島県離島振興計画」奄美群島は「奄美群島振興計画」によって振興計画が推進されている。

離島全体の人口をみると、平成50年231,911人から、平成12年では191,386人と82.5%まで減少している。

高齢化は島によって異なるが、鹿児島県離島の平均は26.5%、高齢化の進行が早いところでは、新島の66.7%を筆頭に、中甑島45.6%、口之島43.9%、上甑島42.0%と40%を超える地域も現出している。

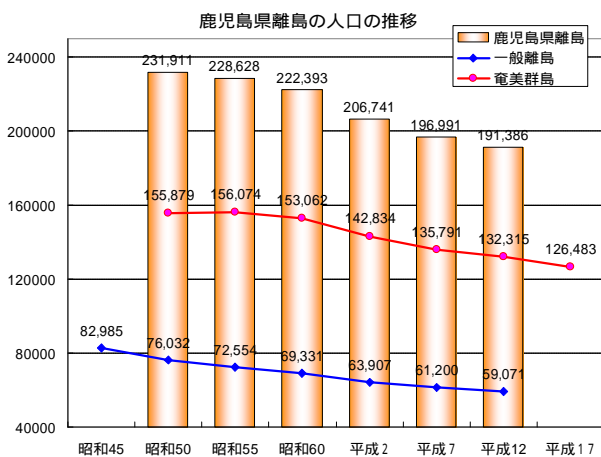


図1 鹿児島県離島の人口推移

(3) 離島振興法適用地域の現状と課題

平成14年7月に成立した新しい離島振興法では、排他的経済水域等の保全などの離島地域の国家的・国民的役割が明確化されるとともに、以下の大きな2つの方向性が示されている。

1. 他の地域に比較して低位にある状況の改善に加えて、離島地域の地理的・自然的特性を生かした振興。
2. 創意工夫を生かしつつ離島地域の自立的発展の促進。

鹿児島県の離島地域においても、温暖な気候や広大な海域など豊かな資源と優れた自然環境を有しており、農林水産物をはじめとするわが国の食料供給基地として、また、観光や国内外の人々との交流の場、人々の心を和らげる「癒しの空間」としての役割、特色ある伝統文化の保存・伝承、貴重な固有種等を有する自然環境の保全など、他に代えられない重要な役割を担っている。

しかしながら、鹿児島県の離島地域はそのほとんどが外海にあり、台風常襲地帯に位置するなど厳しい自然条件下におかれている。

| | 単位 | 離島平均 | 鹿児島県 | 全国平均 |
|----------------|----|---------|-------|-------|
| 人口の増減率(対前年) | % | -0.7% | -0.3% | -0.4% |
| 人口高齢化率(65歳以上) | % | 29.5% | 25.8% | 22.5% |
| 1人当たり所得(県民所得) | 千円 | 202,000 | 2,004 | 1,000 |
| 1人当たり所得(15歳未満) | 千円 | 0.74 | 0.74 | 0.45 |

表1 離島地域と本土との格差

資料: 鹿児島県離島振興計画

のデータについては、一部離島を除く。2 離島地域は、奄美を除く。

また、住民の所得や市町村の財政基盤などにおいて本土との諸格差が存在し、若者を中心とする人口の流出や高齢化が急速に進行するなど今なお解決すべき課題が残されている。

・南の島々を輝かせるプロジェクトの概要

鹿児島県は、28の有人離島を有する全国有数の離島県であり、県人口の1割強が暮らしている。

離島地域の経済の活性化は永年の課題であり、これまで地場産業は、地理的不利に起因する規模零細、流通コスト高、担い手不足などの問題に発展を阻まれてきた。

しかしながら、昨今の食の安全に対する国民意識の高まりを背景に自然に育まれた特産品のメリットが見直され、さらに情報化の進展によって、インターネットを通じた個人向け小口需要が大規模な広がりを見せているなど社会情勢は確実に変化しており、小規模な産業が主体である当該地域にとっても十分市場を獲得できるチャンスがある。また、本土最南端に位置する南の島々特有の自然環境や文化・歴史を活かした自然回帰指向の観光も未開発であり、同様のポテンシャルを有している。

そのため、各離島の魅力を再発見することにより、島外への販売強化による販路拡大を図るため、実際に見たり、聞いたり、食べたりを体験するアンテナショップを開設する。

離島のデメリットを補完した消費者直接販売を行うためのインターネットショップを開設する。

都市部からの訪問客を増やし、宿泊・飲食・特産品の販売増による経済の活性化を図るため、アイランドツアーを企画する。

以上の情報を発信するPRの強化により離島の認知度を向上させる。このことにより、離島の雇用増大と自立を図り、次世代につながる持続的発展を実現することを目的として実施した。

1. 実証実験「かごしまアイランドショップ」(アンテナショップ)の開催

(1) 取組みの手法

NPO法人「ゆめみなと鹿児島」が主体となり、鹿児島県、KAGOSHIMA 熱闘会議、鹿児島県離島振興協議会、KTSクリエイティブ、地域振興研究所、南日本新聞社、JTB九州鹿児島支店が連携し、「南の島々を輝かせるプロジェクト協議会」を立ち上げ、南の島々に担当窓口と地区委員を置き、「かごしまアイランドショップ」の準備を行った。出展交渉や指導を行うプロジェクトマネージャーを配置し、南の島々の意見や意向を汲み取りながら、出展者の募集、出品物の確認、及び輸送体制・保管体制、地元からの販売員の確保等を行った。

かごしまアイランドショップ『南の島ゆめ市場』という名称で開催。運営体制は出展者・実演者、郷土芸能・郷土PR、島の写真展の島側の体制と協議会の事務局運営体制(ボランティア、イベントステージ、商品管理・清掃など事務局全般)の共同作業とした。

(2) 実施主体

NPO法人ゆめみなと鹿児島

(鹿児島県・KAGOSHIMA 熱闘会議・鹿児島県離島振興協議会・KTSクリエイティブ・地域振興研究所・南日本新聞社との連携)

(3) 出展要請および出展者

有人離島 28(22 市町村)の内、特産品のない鹿児島市(新島)と出水市(桂島)を除き、

有人離島 26(20 市町村)を 14 のブロック(長島, 上甑島, 下甑島, 種子島, 屋久島, 三島, 十

島, 奄美北部, 奄美南部, 喜界島, 徳之島, 沖永良部和泊地区, 沖永良部知名地区, 与論島)に

分け、平成 21 年 8 月から平成 21 年 12 月まで、担当窓口を訪問し、説明会を各島 2~4

回開催し、出展要請を行った。出品物の指導や加工場での打合せも並行して行い、有人離島 26(20 市町村)95 業者 640 品目の出展があった。

(4) 開催内容

「南の島々を輝かせるフェア・かごしまアイランドショップ」南の島ゆめ市場開催趣旨: 我が国最大の離島航路の発着拠点である鹿児島港で、南の島々の観光情報や地域物産の周知・PR を目的としたアンテナシ

ョップ(見本市)を開催し、商品販売とともに消費者意向の把握を行うために「南の島々を輝かせるフェア・かごしまアイランドショップ」南の島ゆめ市場を開催。



・開催概要

会期: 平成 22 年

1 月 14

日(木)~1 月 24 日(日)の 11 日間、午前 10 時から午後 4 時まで(土日は 5 時まで)

会場: 〒892-0814 鹿児島市本港新町 3 番地
北埠頭ターミナル 2 階

内容:

島の宝物(島毎のコーナー展開)

果物、芋類、花、魚介類、黒糖焼酎、酢等の産直販売。試飲・試食もあり農産加工品など島独特の地域特産品の販売(島外へはじめて出展する所もあり)観光情報の提供

「実演」コーナー

コロッケ・もずくそば・うどん・黒糖ジュース・黒糖づくり等

解体ショーコーナー

まぐろの解体・ソデイカの解体・ブリの解体

地域伝統工芸コーナー

地域伝統工芸品(大島紬・芭蕉布・屋久杉工芸品等)の展示・販売

イベントステージ

南の島々の郷土芸能(島唄・エイサー・琉球舞踊など)と市町村の観光PR

南の島々の写真展

南の島々をフィールドに活躍している写真家の作品展示

幸せを呼ぶ蝶々と言われている『オオゴマダラ』のコーナー

喜界島より保護蝶である『オオゴマダラ』を郵送、会場で孵化させた。

(5) アンケート調査の実施

南の島々を輝かせるプロジェクト協議会では、鹿児

島県内の 28 有人離島（22 市町村）の魅力を見出すことにより、島外への販売強化による販路拡大を図るため、実際に見たり、聞いたり、食べたりを体験するアンテナショップを開設する。南の島のデメリットを補完した消費者直接販売を行うためのインターネットショップを開設する。都市部からの訪問客を増やし、宿泊・飲食・特産品の販売増による経済の活性化を図るため、アイランドツアーを企画する。

また、以上の情報を発信する PR の強化により南の島の認知度を向上させる。このことにより、南の島の雇用増大と自立を図り、次世代につながる持続的発展を実現することを目的とした。

そのためアンケート調査では、認知度調査（基礎的認知・イメージ・特産品・観光） 経験値調査（訪問経験・交通手段・目的・印象） 観光情報の入手先 再訪問の意志 南の島ゆめ市場への来場目的 購入内容 購入基準 南の島ゆめ市場の内容評価 南の島ゆめ市場の継続意向について調査することを目的として実施した。

2. インターネットショップの構築

(1) 取組みの手法

各地区の生産者にインターネットショップの有効性等について理解を得るために、インターネットショップのパンフ（出店申込資料）、デモ画面等を作成し、説明会を開催した。

（全体説明会 2 回）

(2) 実施主体

K T S クリエイティブ（KASOSHIMA 熱闘会議・鹿児島県離島振興協議会・南日本新聞社・地域振興研究所との連携）

(3) 出店要請内容および出展者

出店募集：出店者名，商品名，商品の説明（こだわりなど）写真，価格，数量，注文ロット，出店者の説明，住所，TEL，FAX，Mail アドレス，ホームページアドレス，配送方法，など

発送業務：出店者が商品の集荷・発送・配達を行う。

出店契約数 14 店（平成 22 年 3 月 18 日現在）

3. 新たな観光プログラムの開発

(6) 新たな観光プログラム

(1) 取組みの手法

南の島々へ取組みの説明を行い、モニターツアー実施に手を上げられた「瀬戸内町」「与論町」「和泊町」を中心に、現地の参画事業者（体験・見学・食事・飲食・お土産・宿泊など）観光協会，商工会，JA 担当窓口と 2 つの新たな観光プログラムの検討・開発を行い、現地視察と参画事業者との面談（内容の確認，注意事項の確認など）を行い、モニターツアーを企画～募集～実施した。

当初は，観光地巡りを主体とする従来型と 地域とのふれあいを主体とする体験型の 2 種類のツアーを実施する予定であったが、「地方の元気再生事業」が平成 22 年度以降中止と決定され、来年度以降のツアー実施が困難となったことから、今年度に 従来型と 体験型を組み合わせ、地区を変えた 2 コースのツアーを実施することにした。

新たな観光プログラムの開発については、今回のモニターツアーの実施中にヒアリング・インタビュー・意見交換会を随時行い、また、アンケート調査結果も参考にし、今回のモニターツアーを修正した案を作成した。

(2) 実施主体

・ツアー企画 / 実施

南の島々を輝かせるプロジェクト協議会（地域振興研究所・KAGOSHIMA 熱闘会議・鹿児島県離島振興協議会との連携）

・手配：JTB九州鹿児島支店

(3) 実施期間および実施場所

A コース：平成 22 年 2 月 17 日（水）～20 日（土）

3 泊 4 日

沖永良部島（和泊町、知名町）～与論島（与論町）

B コース：平成 22 年 2 月 22 日（月）～25 日（木）

3 泊 4 日

奄美大島（龍郷町、奄美市、瀬戸内町）～加計呂麻島（瀬戸内町）

(4) 実施期間および実施場所

応募総数 131 名

（厳正なる抽選で、各コース 10 名の当選者と 2 名の次点を選定）

新たな観光プログラム案(1) (与論・沖永良部コース) ~ 南の島のヘルスツーリズム・心も身体も健康ツアー ~
(1日目)

| 時間 | スポット | 選定理由・みどころ・PRポイント |
|-------|---------------------------------|--|
| 11:00 | | [各地区より鹿児島空港へ集合] |
| 12:10 | 鹿児島空港発 | 飛行機で沖永良部へ(昼食は機内で鹿児島郷土料理弁当) |
| 13:40 | 沖永良部空港着 | 出迎え・熱烈歓迎 |
| 移動 | 0:05 | |
| | フーチャ(潮吹き洞窟) [20分] | 隆起サンゴ礁が荒波で浸食されてできた潮吹き上げ洞窟。季節風や台風の時 は20m~70mも吹き上げる。幸運だと海亀が出迎えてくれる |
| 移動 | 0:05 | |
| | 日本一のカジュマル (国頭小学校校庭) [15分] | 110年前に植えられた日本一大きなカジュマル。 『母の潮くみの像』が側にあり、子どもたちにお母さんに感謝する気持ちを教育 している |
| 移動 | 0:05 | |
| 14:30 | 体験コース[120分] ・4コース ・事前選択 | 海洋療法体験「タラソおきのえらぶ」 温水プールでの歩行、水泳、ジャグジー、ジェットマッサージやアロマトリートメント等がある(水着、バスタオル持参) 琉球舞踊体験 舞踊教授による舞踊の指導と地元生徒さんたちとの手づくり漬物、お菓子と 地元の暮らし話による茶話会 エイサー(太鼓)体験 地元高校のエイサー部生徒による指導。琉球音楽と演舞と太鼓の楽しい体 験 シュノーケリング体験 沖合ダイビングスポットでの海中探検。海亀やギンガメアジのトルネードが見 られるかも。水着、バスタオル持参。ウェットスーツは現地で借用(身長・体 重・靴サイズ必要) |
| 移動 | | |
| 16:30 | ビジネスホテルうぐら浜チ ェックイン | ウェルカムコーヒーを楽しみ、ビジネスホテルではあるが、民宿の雰囲気であ 迎えてくれるオーナーとの話が楽しみ |
| 17:00 | 街中散策と自由時間 南州神社など | 西郷上陸の地である沖永良部は、今でも西郷隆盛の「敬天愛人」の考え方を子 どもたちに教育している |
| 18:00 | 夕食&地元との交流会 料理屋にて | 唄や踊り、三線も入り、地元の文化にふれ、地元の方々(体験インストラクターを 含む)と交流する |

(2日目)

| 時間 | スポット | 選定理由・みどころ・PRポイント |
|-------|-------------------------|---|
| 8:00 | 朝食 | ホテルでの地元食材を使った朝食 |
| 8:50 | ホテルチェックアウト | |
| 移動 | 0:00 | |
| 9:00 | 体験コース[180分] 移動含む | 農業体験 花の収穫[60分]花刈り~選別~袋入れ~梱包までの体験 収穫した花はお土産に さとうきびの収穫[120分]さとうきび刈り~剪定~搾汁~PH調整~煮る~火 から下ろす~冷ます~黒糖~試食 |
| 12:00 | 昼食 | 地元食材を使った創作料理を食べながらシェフの話を聞く |
| 13:00 | 体験コース[90分] | 郷土菓子作り体験 田芋餅、アンダーギー、落花生の砂糖煮、田芋煮などを地元農産加工グル ープに学ぶ。ローゼル茶をいただきながら試食する |
| 移動 | 0:10 | |
| 14:40 | 黒糖焼酎蔵見学[60分] | 地元の黒糖焼酎蔵の見学と試飲を楽しむ。地元で作られて手づくりの漬物など おつまみの試食とオーナーの焼酎づくりの話を聞く |
| 移動 | 0:05 | |
| 16:00 | 島人プラザ見学[60分] | ソデイカと夜光貝の解体ショーなど島の漁業の話を交えた交流 |
| 移動 | 0:15 | |

| | | |
|-------|----------------------|---|
| 17:15 | おきのえらぶフローラルホテルチェックイン | 国民宿舎的な雰囲気のある海に面したホテル。海に朝陽が上る風景を海側の部屋から望める |
| 17:30 | 自由時間(浜の散策など) | 砂浜を散策したり、ウォーキングしたり、大島紬工房の見学などができる |
| 18:30 | 夕食&地元との交流会 | 地元の文化にふれ、地元の方々と交流する |

(3日目)

| 時間 | スポット | 選定理由・みどころ・PRポイント |
|-------|-------------------|--|
| 7:30 | 朝食 | ホテルバイキング |
| 9:00 | 昇竜洞散策【60分】 | 琉球石灰岩が地下水に溶解されてできた鍾乳洞。東洋一と言われており、銀色に光っている岩など秋吉台鍾乳洞と違って色々な個性がある |
| 移動 | 0:10 | |
| 10:10 | 高倉と住吉クラゴウ【40分】 | 島の歴史や暮らしが理解できる高倉(天井が倉庫になっている)やクラゴウ(湧水池で水を桶に入れ、頭に載せて運んでいた)の見学 |
| 移動 | 0:10 | |
| 11:00 | 田皆岬散策【30分】 | 奄美十景に選ばれている絶景スポット |
| 移動 | 0:20 | |
| 12:00 | 沖永良部発(和泊港) | フェリーにて与論へ、船旅を楽しむ。乗船後すぐに船内のレストランで昼食 |
| 13:40 | 与論島着(茶花港) | 出迎え・熱烈歓迎 |
| 移動 | 0:05 | |
| 14:00 | プリシアリゾートヨロンチェックイン | リゾートホテルで南国の雰囲気を存分に楽しめる |
| 移動 | 0:20 | |
| 14:50 | 与論城跡見学【30分】 | 沖縄本島を望む歴史的史跡。わずかに残る石積が往時を偲ばれる |
| 15:20 | サザンクロスセンター見学【30分】 | 360度のパノラマを楽しみ、奄美5島の歴史や見所を見学。与論島の歴史・文化・自然全てがわかる面白ミュージアム |
| 移動 | 0:20 | 大金久海岸へ |
| 16:10 | 百合が浜【60分】 | グラスボートに乗船し、年齢の数だけ星砂を拾えば幸せになれると言い伝えがある。潮流により作られる沖合いに浮かぶ白い砂浜。帰りにサンゴ礁や熱帯魚を観察できる |
| 移動 | 0:10 | |
| 16:20 | ホテル着 自由時間 | 夕日の沈むビーチを眺めながら散策 |
| 18:30 | 夕食&交流会 | 与論献奉体験 与論島独特の参加者お互いが紹介しあうコミュニケーション作法 |
| 19:45 | ライブ鑑賞と手踊り体験【120分】 | 民謡酒場「かりゆし」でのライブ鑑賞と手踊り体験 琉球音楽と黒糖焼酎と手踊りで島の方たちと交流。 |

(4日目)

| 時間 | スポット | 選定理由・みどころ・PRポイント |
|------|---|--|
| 7:30 | 朝食 | ホテルバイキング |
| 9:00 | 体験コース【150分】 ・4コース ・事前選択 移動含む | 草木染体験 (ハンカチまたはTシャツ) <与論民俗村> 昔の民家や民具をそのまま残す屋外民俗資料館である与論民俗村で島内の草木で染めるハンカチやTシャツはお土産にも。島の暮らしが文化を聞きながらの楽しい体験 フォトスタンド体験 <ホテル内ショップ> サンゴや砂浜で拾った貝殻などを使って、オリジナルフォトスタンドを制作 ジュリーキャンドル <ホテル内ショップ> 砂浜で拾った貝殻などを選んだ色のゼリーの中に入れて、浮かんでいるように表現するキャンドルの制作 ゆんぬ・あーどる焼 <ゆんぬ・あーどる焼窯元> 与論島で育ったサンゴやサトウキビ、ソテツなどから作った釉薬を使った焼き物。赤土を使っており、楽しい陶芸体験である |

| | | |
|-------|-------|-------------------|
| 11:30 | 昼食 | 与論島名物の「もずくそば」を楽しむ |
| 移動 | 0:10 | 与論空港へ |
| 13:30 | 与論空港発 | 鹿児島着(14:40)解散 |

鹿児島空港発着とした。福岡からは新幹線と飛行機で鹿児島空港へ向かう2つの選択肢があり、両方とも旅行者の要望がある。2つのコースを作ることも検討したい。与論から福岡へ戻る場合は沖縄経由の方が安い。

新たな観光プログラム案(2) (奄美・加計呂麻コース) ~ 南の島のヘルスツーリズム・心も身体も健康ツアー ~ (1日目)

| 時間 | スポット | 選定理由・みどころ・PRポイント |
|-------|------------------------|--|
| 12:30 | | [各地区より鹿児島空港へ集合](昼食は済ませておくこと) |
| 13:35 | 鹿児島空港発 | 飛行機で奄美大島へ |
| 14:30 | 奄美大島空港着 | 出迎え・熱烈歓迎 |
| 移動 | 0:10 | |
| 15:00 | 奄美大島細村 【120分】 | 大島細泥染め体験 ハンカチ、Tシャツ、のれんなどの素材に綿糸、ゴムなどを使って絞りを施し、 泥の田んぼ の中で 絞り染め を楽しむ事ができます。泥染め職人の指導(方言まじり)のもとに世界にひとつだけのオリジナルの作品を作ってみませんか |
| 移動 | 0:20 | |
| 17:30 | ホテルウエストコート奄美 チェックイン | 街中のシティホテルに宿泊 |
| 18:30 | 島料理店での夕食&地元 の方との交流会 | 島ラッキョ、豚、豚の揚げ物、あぶらソーメン、卵包みのおにぎり等島の郷土料理を堪能 |

(2日目)

| 時間 | スポット | 選定理由・みどころ・PRポイント |
|-------|-------------|---|
| 7:00 | 朝食 | ホテルバイキング |
| 移動 | 1:00 | |
| 9:00 | オリエンテーション | せとうち海の駅での観光協会によるオリエンテーション、島巡り案内人の紹介と帰りの買物チェック |
| 9:30 | 海上タクシー乗船 | チャーターした海上タクシーで加計呂麻島へ移動。大島海峡を風を受けながら走る |
| 10:00 | 島巡り観光【120分】 | 島巡り 海上タクシーで砂浜に乗り上げで下船。加計呂麻バスに乗り、島巡り案内人による歴史・文化・自然・花・砂浜など「日本の里100選」加計呂麻島の暮らしに迫る(前半) 戦跡巡り(震洋艇のレプリカ、格納庫)、島尾敏雄文学碑公園 寅さんロケ地スリ浜 諸鈍大屯神社(諸鈍シバヤが旧暦九月九日に奉納される)・デイゴ並木(樹齢350年のデイゴなど85本のデイゴの巨木が並んでいる)・男はつらいよ寅次郎「紅の花」でヒロインのリリーが暮らしていた家がある |
| 12:00 | 昼食 | 新鮮な海の幸(当日目の前の海で獲れた魚など)の料理を堪能し、浜辺散策を自由に楽しむ |
| 13:00 | 島巡り観光【180分】 | 島巡り 加計呂麻バスに乗り、島巡り案内人による歴史・文化・自然・花・砂浜など加計呂麻島の暮らしに迫る(後半) 渡連(サンゴ礁の浜でサンゴ拾い) 安脚場戦跡(砲台や弾薬庫) 徳浜(小さなリーフと白砂の浜。星砂が沢山拾える。ライオン岩、さんご塩工場) |
| 16:30 | ホテルチェックイン | コテージやペンションを利用(寝着やタオルは個人で準備) マリブルーカケロマやダイビング&ペンション RIKI |
| | 自由時間 | ウォーキングや浜辺散策など自由に過ごす |
| 19:00 | 夕食&地元との交流会 | 島料理を楽しむ。音楽好きな方はライブもあります。案内人との交流も楽しみ |

(3日目)

| 時間 | スポット | 選定理由・みどころ・PRポイント |
|-------|---|--|
| 7:30 | 朝食 | ホテル自慢の島料理 |
| 9:00 | 体験コース【150分】 ・2コース ・事前選択 移動含む | シーカヤック体験 シーカヤックで風光明媚な海をのんびりゆっくり体験。マングローブの森へ上陸もあります。(濡れても大条文服装で) 貝殻細工体験 夜光貝などを磨き、世界に一つのオリジナルアクセサリーをつくる体験 |
| 12:00 | 昼食 | 地獲れの魚や無農薬野菜など新鮮で安全な島素材をふんだんに使ったオリジナル料理を堪能 |
| 移動 | 0:30 | |
| 13:30 | 体験コース【150分】 ・2コース ・事前選択 移動含む | 黒糖づくり体験 サトウキビ搾りから黒糖になるまでの作業を体験し、爽やかな汗を流そう！ さとうきび刈り～剪定～搾汁～PH調整～煮る～火から下ろす～冷ます～黒糖出来上がり～試食 天然塩づくり体験 自然豊かな徳浜で天然塩づくりを体験しよう！ 海水汲み上げ～薪割り～薪くべ～塩水と塩に分離～塩の天日干し |
| 16:30 | ホテルへ移動 自由時間 | 散策やウォーキングを楽しむ |
| 18:00 | 体験コース【60分】 | 島唄・三味線体験 島唄や三味線に触れて、島の伝統文化に触れる 三味線演奏の体験 |
| 19:00 | 夕食&体験コース【120分】 | 八月踊り交流 夕食を食べながらの八月踊りの観覧 食事後に八月踊り交流、いっしょに踊りましょう |

(4日目)

| 時間 | スポット | 選定理由・みどころ・PRポイント |
|-------|----------------------|--|
| 7:00 | 朝食 | ホテル自慢の島料理 |
| 8:00 | ホテル前の棧橋から出航 | 海上タクシーで真珠の養殖場へ |
| 8:30 | 奄美ササシ- & マパール見学【60分】 | 真珠づくり作業見学 真珠への核の取付け作業などの見学と貝の解体・貝柱試食 真珠製品の見学 |
| 9:30 | 移動 | 海上タクシーでせとうち海の駅へ |
| 9:45 | せとうち海の駅 | 寅さんロケセット見学、買物など |
| 10:00 | 移動 | |
| 11:00 | 道の駅 奄美大島住用 | 見学・買物 |
| 12:00 | 昼食 | 奄美パーク内のレストラン「たから」で奄美名物料理の「鶏飯」を堪能 |
| 13:00 | 奄美パーク見学【90分】 | 田中一村記念美術館 大島紬工事で働き、衣食住を切り詰め、奄美を描き続けた孤高の画家。素晴らしい作品を鑑賞。 奄美の郷 奄美群島(喜界島～与論島の8つの有人離島の総称)の自然と暮らし、歴史を学ぶ。独自の風習や民俗・文化をわかりやすく紹介 |
| 移動 | 0:10 | |
| 15:10 | 奄美大島 発 | 鹿児島空港 着(16:00) 解散 |

鹿児島空港発着とした。福岡からは新幹線と飛行機で鹿児島空港へ向かう2つの選択肢があり、両方とも旅行者の要望がある。2つのコースを作ることも検討したい。

・南の島々を輝かせるプロジェクトの検証

・取り組み1：実証実験「実証実験「かごしまアイランドショップ」の開催

(1)取り組みの結果

有人離島28(22市町村)の内、特産品のない鹿児島市(新島)と出水市(桂島)を除き、有人離島26(20市町村)95業者640品目の出展によるかごしまアイランドショップ『南の島ゆめ市場』を開催した。期間中の来場者数34,900名。売上高20,483千円で目標

を大きく上まわった。取材した報道延べ 27 社。アンテナショップの開催により品目別売上傾向などの把握、価格や量目の調査など出展者にとって今後の改善・開発に役立つ消費者の嗜好や需要動向の情報を入手でき、また、消費者の反応から魅力的商品となるためのポイントや潜在的なニーズを把握できた。

- ・目標：来場者数 15,000 人 売上目標 7,500 千円
- ・実績：来場者数 34,900 人(達成率 232.7%)
売上高 20,483 千円(達成率 273.1%)

また、アンケート調査の結果によれば、「美味しい」(29.1%)「地元産」(28.4%)「新鮮」(10.1%)「安全安心」(9.9%)な特産品を提供しなければならないことがわかり、「価格」(3.6%)ではなく「南の島」にこだわった取組が求められている。(例えば、黒糖ピーナツでも、黒糖だけでなくピーナツも地元で生産していくことが求められている。)

また、鹿児島市への情報発信が不足し、良い特産品があっても知られていないという現実には販売実績からも伺え、島の特産品を如何に島外に売り出していくかが大きな課題である。

(2) 課題

流通対策を強化し、島外需要を喚起し、島外で販売拡大する戦略市場戦略の構築と観光と連携し、観光交流客を島に誘致し、島内で消費してもらう地域内循環型市場を如何に構築していくかが課題である。

「美味しい」「地元産」「新鮮」「安全安心」な特産品を生産・製造し、南の島の特産品としてブランド化する必要性がある。

消費者が買いたくなる価格や量目に合わせた商品の改善をする必要がある。

観光客向けだけでなく、島外へ販路を開拓する必要がある。そのためには、一括コンテナ輸送などの輸送コスト低減策なども検討課題である。

(3) 今後の対策

地産地消・地産外商のためのこだわり地域特産品の開発に力を入れる。

南の島々それぞれの個性溢れる商品づくりを行う。地元の郷土料理(伝統食)から導き出した特産品を商品化していく。

バイヤー(百貨店など)による売れ筋商品化のための指導・アドバイス会の実施や商談会の開催。

市場、量販店、百貨店、業務用卸など流通対策を実

施する。また、船会社や航空会社との輸送費削減対策を連携して実施していく。(今回、奄美海運と徳之島等でコンテナ輸送実証実験を試みた・・・一部天候不良につき欠航のため参加できず経費削減の結果は得られなかった。ただし、会場側の埠頭に横付けしていただき、陸揚げ費用および陸上輸送コストの削減には寄与した)

以上をサポートするために

1)情報発信に力を入れ、南の島全体のイメージを高める。

TV番組の取材や雑誌(旅事情報誌、女性誌、シニア誌など)への掲載
ブログなどの口コミ情報の利用

2)実体験した(購入・飲食や旅行)消費者が、インターネットショップのいつでも購入できるシステムと連動することにより、南の島々の経済の活性化につなげていく。

インターネットショップの活用

インターネットショップの中にヒット商品を出す

3)「かごしまアイランドショップ」の継続的開催を希望する消費者が多く(95.5%/是非継続 81.7%+できたら継続 13.8%)鹿児島市内で南の島々の特産品を日頃買えない現状と買い続けたいとの意向が読み取れる。鹿児島市内での南の島々の特産品の販売拠点の設置と販売力の強化を行う。

鹿児島市内商業地域との連携を図る。

鹿児島市内の飲食店での食材利用促進を図る。

第2回南の島ゆめ市場開催に向けた検討今回は出展者にも来場者にも支持され、次回の開催を望まれている。今後の開催については、以下の項目について協議、検討を行う必要がある。

・出展者の負担軽減策の検討(商品の輸送費、出展者の交通費・宿泊費の捻出、出展料の軽減、売上手数料の軽減など)

・会場設営費、広報PR費、事前打合せ等の出展準備費、会場運営費などの検討

・会場費など県の施設利用による減免処置の継続

・会場、開催時期の検討(南北 600km あるため、すべての島が同時期とはならないが、ベターな時期を選ぶ)

2. 取り組み2: インターネットショップの構築

(1) 取り組みの結果

各島で実施したプロジェクトの説明会では、離島のデメリット（流通コスト高・規模零細）を補完するためのインターネットショップ（ショッピングモール）の構築に対して、アンテナショップ開催より大きな期待感が感じられ、インターネットショップの開設準備を進めた。しかし、目標出店契約数 22 店以上に対して、14 店の契約に終わった。他にもインターネットショップへ出展希望者はいるが、契約にいたっていないのが現状である。

目標達成できなかった要因は以下の理由が考えられる。

島の IT 事情、すなわち光ファイバー網が完備されておらず、島によってはインターネット画面を開くだけで 10 分程度かかる所もある。（光ファイバー網については順次整備予定）

生産者や加工業者のインターネット普及率が低い（全国 91.1%、鹿児島県は 47.2%で 42 位。さらに離島は普及率が低い）そのため経験不足と言える。

販売したが代金回収できなかったケースやクレーム問題等の IT に対する不安や不信感もある。

離島であるため、商品に加算される送料が高くなる事から、注文が来ないのではないかという不安がある。

(2) 課題

当然ながらインターネットショップはそれ自体のみでは注文が来ない。アクセス頻度を上げ、インターネットショップでの販売に結びつくためにはインターネットショップのアドレス告知が大きな課題である。その対策を明確に打ち出し、出店予定者に安心感を与えることが必要である。

島への出店勧誘を強化することで出展者数を増やし、ヒット商品を出すなど、魅力あるサイトにしていくことが課題である。

本事業でのアンテナショップの買物客やモニターツアー参加者（42%がインターネットショップを利用したいと回答）などから口コミで広がるように、様々なチャンネルを利用して情報発信していく必要がある。

(3) 今後の対策

本土内に居住する各島出身者団体に協力を求める。インターネットショップの紹介パンフレットを製作し、島を訪れる旅行者や交流人口へ配布する。また、

物産フェアなどの島外活動時にも積極的に配布する。島の IT 事情の改善による光ファイバー網の整備により、パソコンおよびインターネット利用者の拡大を図り、インターネットショップへの出展者を増やす。また、本インターネットショップからヒット商品を出していくことで、他の商品の売上増へも結びつく。

食の安全性の面から、トレーサビリティ（QRコードにより生産履歴を確認できるようにする）を取り入れ、消費者および流通業者に認めてもらうため、商品の品質保証制度を確立していくことも考えられる。

ウェブサイト告知のため、ウェブ戦略を構築する。

- ・ウィキペディア充実事業（HP書き込み促進事業）

効果的な情報発信が期待できる HP に本モールのリンクバナーの掲載を依頼。

例：KTS 鹿児島テレビの NikiNiki

- ・県、市町村ホームページの活用

本モールのリンクバナーを 県及び市町村のホームページ上に掲載依頼。

3. 取り組み 3：新たな観光プログラムの開発

(1) 取り組みの結果

参加者アンケート調査（モニターツアー中にヒアリングやインタビュー、意見交換会した内容もアンケートに記載してもらった）によれば

「地元の方々との交流触れ合い」「ゆっくり浸る体験プログラムの内容」「旅行準備段階での旅行者とのコミュニケーション（心配り）」が観光客の満足度を高めることがわかった。

さらに、あまり多くのメニューを入れずに自由時間を設定し、個人の時間を増やすことも満足度が増すとわかった。

食事は地産地消で年齢層に対応した内容・量にし、変化（メリハリ）をつける必要がある。

特に観光案内人の人材（親切丁寧な説明、郷土愛豊かな地元学の習得、演出などのおもてなし教育で育成された人材）が旅の魅力度を左右することも確認された。

島の観光面からの分析では、今まで観光業として十分育っていないため、不安を抱えてのモニターツアーであったが、農水産業と観光を連携させることにより、第一次産業だけでなく、新たな産業として発展してい

く道筋が見えてきたと判断されている。

また、今までお金にならなかった部分を観光化することにより、新たな収入を得ることが出来、所得増に結びつくことが分かったとの島からの報告である。一方、受け入れ先の各島においては、ツアーに対する対応（下記項目等）が各島毎に異なることが見受けられた。

地元の方々との交流

島巡りと体験（特に収穫～加工～試食の一貫した体験）の組み合わせ

地元郷土料理の食事

観光土産品 アンケート調査では、参加者全員が再訪を希望、島からの情報も希望されており、モニターツアーの役割を十分果たしたと考えられる。さらに、今回モニターツアーを実施することにより、従来型とは異なる新たな観光プログラムを2案作成できたことは、他の島にも参考となり、大きな成果と言える。

(2) 課題

各島において、島民による島資源の再発見活動を推進し、交流プログラム・体験プログラム・島内交通アクセスプログラム・観光案内人や体験インストラクター育成プログラム・情報発信プログラム・観光施設や案内看板の再整備等を企画し、驚き・感動・笑顔・癒しを提供し、満足度の高い着地型ツアーを提案できるようにしていくことが課題である。

福岡の場合、旅費(航空運賃)が沖縄に比べ割高となっているため(直行便と割引制度)旅費の低減策が重要となる。航空会社との話し合いでは、搭乗率が上がり、貨物も含め原価低減できれば、運賃の検討は可能であるとの感触をつかんでおり、旅行者の増加 航空運賃のダウン 旅行者の増加のサイクルにすることが課題である。

(3) 今後の対策

新たな観光プログラム2案について、協議会委員のJTBだけでなく、他の旅行会社にも意見を聞き、ツアー商品として検討してもらう。

旅費の低減策については、多くの旅行者が南の島を訪問することが最大の解決策と考えられるので、モニターツアー参加者から口コミで南の島への旅行を拡げてもらおう。

すでに花の時期や祭の時期に再訪を計画されている参加者もいる。

ふるさと大使的存在である島出身者の会があり、その方たちやモニターツアー参加者を中心にファンクラブを設立し、出発地に応援団を作る。

・今後の展開

平成22年度以降への展開について

「かごしまアイランドショップ」(アンテナショップ)の開催については、継続的に南の島々の特産品が鹿児島市内でも買える様な仕組みを構築する必要がある。鹿児島市内流通各社や料理店への商品品揃え拡大、福岡市内の料理店への商品品揃え拡大を図っていく。また、福岡市(博多大丸、福岡三越、岩田屋、博多駅阪急など)や熊本市(鶴屋)へも、販売データを駆使して販路拡大を図っていく。まずは鹿児島の南の島ゆめ市場フェアを開催できる流通を探していく。将来は関東・関西にも進出できればと考えている。

インターネットショップについては、出展者を増やし、魅力あるショッピングサイトにしていく必要がある。毎月の出展料を無料とし、販売したものの手数料のみでの運営や現在の代金回収システムを守り、出展しやすい内容を継続していく。

新たな観光プログラムの開発については、アンケート調査の内容を南の島々に報告し、すべての離島で具体的な体験プログラムの構築を行っていく。島民による島資源の再発見活動を興し、交流プログラム、体験プログラム、島内交通アクセスプログラム、観光案内人や体験インストラクター育成プログラム、情報発信プログラム等を提案し、驚き・感動・笑顔・感涙・癒しを提供し、満足度の高い着地型ツアーを提案できるようにしていきたい。

お客様のために

働いている人たちが、それぞれの立場で

どのように満足してもらうかを

自らが考え、企画し、行動することが大切である